

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 20 日現在

機関番号：12102

研究種目：若手研究(A)

研究期間：2012～2015

課題番号：24686067

研究課題名(和文)多様性と共生の知恵を育む中東・北アフリカ地域の都市計画史

研究課題名(英文) Diversity and Symbiosis considered in urban planning history of the Middle East and North Africa

研究代表者

松原 康介 (Matsubara, Kosuke)

筑波大学・システム情報系・准教授

研究者番号：00548084

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 6,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、中東・北アフリカ地域の都市計画史を刷新することを目的とする。ベイルート、ダマスカス、アレッポ、アルジェを中心とする対象都市における、旧市街の空間構成を一次資料及び既往研究から解明し、これを踏まえてフランス植民地化以降の近代都市計画史の考察を行った。日本人都市計画家の業績をフランス都市計画史の系譜に位置づけ解明した。日本都市計画学会論文賞、国際都市計画史学会東アジア賞の二つの学術賞を受賞した。

研究成果の概要(英文)：This project was finished as scheduled in the research plan. I analyzed the spatial composition of the old city of the target cities of Damascus, Aleppo, Beirut and Algiers. Then I considered the urban planning history after French colonial era. Basically the results were published as peer reviewed papers, and I made presentations of them as oral presentation, research workshop, guest lecture and general talk event. For these works, I received two awards; Article Prize of The City Planning Institute of Japan and East Asia Planning History Prize of the International Planning History Society.

研究分野：都市計画史

キーワード：中東・北アフリカ ダマスカス アレッポ ベイルート アルジェ モロッコ 植民都市計画 都市組織

## 1. 研究開始当初の背景

古来より文化交流の要衝であった中東・北アフリカ地域には、多様な文化が積層した歴史都市が多く存在する。ギリシア・ローマ時代にはグリッド型街路を基盤とし、神殿・教会・広場が建設された。イスラーム諸王朝時代には、より複雑で袋小路も多い微細な街路網が形成され、宗教施設もモスクへとコンバートされた。オスマン帝国は、モスクから一般住宅に至るまで独自の建築様式をもたらし、更に、フランス領時代には、上記旧市街の外殻に復興バロック式の都市設計に基づく新市街が建設され、更なる変容が進展した。多様性豊かな都市空間は、破壊・喪失と新生を繰り返した同地域の交流の歴史の結晶であり、異なる文化の長きに渡る共生の証でもある。そして、今日わが国も含めて実施されている国際協力・交流に基づく都市保全プロジェクトは、歴史都市の多様化と共生のプロセスへの、現代人による実践的な参加と位置付けられる。

旧市街については、近代以前の行政機構やワクフ（イスラームに基づく寄付の仕組み）等をテーマとする文系分野も含め、ダマスカス・アレppoに関する成果が特に充実しており、わが国の研究者による成果も見られる。仏領期の研究は旧宗主国フランスの建築史分野を中心に展開し、学術的成果から精彩な写真集まで広く成果がある。独立期は、植民都市計画の矛盾や途上国問題、中東政治の激動等を背景に、近代開発による旧市街の破壊や都市計画の機能不全といった課題が噴出する、「多様性の危機」の時代であるが、欧米研究者はテーマを問わず無関心な一方、アラブ側も定番となる成果に到達しえていない。ユネスコによる世界遺産登録に象徴される、国際協力・交流の時期は現在までを含み、商業開発の性格が強いベイルートの戦災復興プロジェクトをテーマとした成果がある。しかし、全体的に、いわゆるプロジェクト評価報告は存在しても、歴史的に位置付ける成果はいまだ存在しないのが実情である。

## 2. 研究の目的

本研究は、都市空間に見られる多様性や共生の知恵を、既往研究も踏まえて再構成し、現代の国際協力・交流のあり方に接続していくための、中東・北アフリカ地域の都市計画史の解明を目的とする。筆者自身が参加するJICAプロジェクトを事例に、研究成果を実務へと還元し、また実務の視点から有効性の検証も行い、結果をフィードバックする実践的な都市計画研究を試みる。

既往研究の手薄な独立期の都市計画について、番匠谷堯二（ばんしょうや・ぎょうじ）を嚆矢とするわが国の国際協力も踏まえて解明することが、既往研究に対する本研究の基本的な位置づけである。しかし、「多様性の危機」に関連して、旧市街本来のあり方を再考し、また植民都市計画を遡行的に再検討

していく必要が生じよう。それらも含めて、本研究では、多様性と共生の知恵を育む中東・北アフリカ地域の都市計画史の解明というテーマを設定した。

## 3. 研究の方法

本研究では、歴史研究+フィールド研究+政策分析の3段階からなる方法(業績欄3-1)を、それぞれの都市について用いる。とりわけ、中東地域及び宗主国フランスを中心に、文献収集、及びフィールド研究による実測図版、映像資料、国際会議による関係者や住民へのヒアリングを重視する。

歴史研究では、各種図書館、行政機関の資料庫、私蔵資料等を対象に文献収集を行う。都市計画図を中心に、誰が(国籍、立場等)どのような考え方で、どのように都市を変えようとしたのかを、国際情勢を含む計画が必要とされた背景、計画段階の理念と制度、承認への議論と行政手続き、実施・施工段階へと至るプロセスの中で解明する。都市計画史としては、主に仏領期と独立期が主な対象となるが、旧市街の形成史と空間構成についても既往研究を踏まえ概括する。

フィールド研究では、歴史研究を受け現代の都市空間上で対象を絞り、実際に訪れる。計画の実現実績を確認した上で、計画によって変容した旧市街空間(たとえば、道路建設によって街路網が切断されている箇所)を、保全の視点から批判的に分析する。更に、近代的空間であっても旧市街の空間原理が生きている箇所(たとえば、アパートの柱廊が元々旧市街の街路に合わせて計画されている箇所、あるいは、歩道上に露天によるスーク(市場)が形成されている箇所、等)を、計画者の意図を逸脱した、住民による都市空間のカスタマイズの事例として位置付け、実測や撮影、ヒアリングから実態的に分析する。

政策分析では、国際協力期を対象に、都市計画に関する行政分析を実施するが、先進諸国や国際機関による策定・実施支援を踏まえ、JICAを含む国際協力プロジェクト単位での調査分析も行う。それぞれのプロジェクトにより都市空間が多様化していく状況を記録するとともに、歴史分析及びフィールド分析に基づく本研究独自のプロジェクト評価を実施して、今後の都市保全の指針を提示し、将来の都市空間の多様化のあり方を展望する。

## 4. 研究成果

### 4-1. 成果の概要

本研究では、おおむね当初の計画通り、中東・北アフリカ地域の都市計画史に関する学術業績を挙げた。とりわけ、日本都市計画学会論文賞、国際都市計画史学会東アジア都市計画史賞の二つの学術賞を受賞した(後述)。

以下、本研究の事例都市であるダマスカス、アレppo、ハマー、ベイルート、アルジェの5都市ごとに成果を概括する。

ダマスカスにおいては、ダンジェとエコシャルが都市基本計画を策定して旧市街と隣接した新市街を設計したが、その後の都市圧力により旧市街内に拡幅に基づく近代道路を導入することが期待された。エコシャル・番匠谷計画(1968)ではこれをヘレニズム時代の都市基盤の再生というコンセプトで実現しようとしたものの、ユネスコを中心とする反対運動の中で中途挫折した。独立後、日本のODAに基づく都市計画が継続的に実施されてきた。主な業績は次章の学術論文(1,2,4,6,8)及び図書(1)である。

アレppoについては、歴史的に交易の要衝にあってスークを中心に発展した旧市街において、番匠谷が中心となった詳細計画(1973)が策定された。アンドレ・ギュトンによるそれまでの主流であったフランス型の道路計画(いわゆるオスマニザシオン)の流れを変更し、袋小路型駐車場を多用した保全型の計画を策定した。独立後はドイツを中心とする国際協力事業によって旧市街の保全事業が実施されている。更に、2011年以降の内戦によって大規模な市街地の破壊が進展していると見られる中、戦災復興計画の必要性を指摘した上で基礎的な戦災状況分析を行った。主な業績は次章の学術論文(14)及び学会発表(2,4,11,13,14,16)である。

ハマーについては、文献研究を中心に進め、古代以来の城と基盤の形成、オロンテス川の水車利用による農業の発達に基づく都市形成史と、現代における前政権による中心市街地の破壊について概説的に明らかにした。主な業績は次章の図書(5)である。

ベイルートについては、中東都市多層ベスマップに基づき旧市街の変容を歴史的に考察した。旧市街は19世紀の形成であるが、1933年にダンジェが策定した計画により、放射状道路とエトワール広場からなるフランス型の中心が実現された。以後のエコシャル・番匠谷計画(1964)ではこの中心が旧市街の歴史的遺産とみなされ保全の対象となっている。7、80年代の大規模な内戦からの復興計画でも、基本的にその方針が踏襲されている。主な業績は次章の学術論文(9,10,14)及び学会発表(7,8,10)である。

アルジェについては、19世紀の前半よりフランス植民都市が実現していたが、1950年代の独立期にシュバリエ市長の下で多文化共生型の都市計画事業が進められた。番匠谷堯二の業務のうち、「トタンバラック移転用の住宅」(雑誌『建築界』1955年12月号)はフランスでいうところのCité Recasement(転出を前提とした仮設住宅)と位置づけられるが、中庭式を中心とする、現地你的生活様式に配慮したものであることがわかった。主な業績は次章の学術論文(5)、学会発表(10,15,17)及び図書(4)である。

より詳細で具体的な研究成果報告としては、次節で挙げた雑誌論文、及び図書の中から、主要なもの4点(a~d)の梗概を提示する。

#### 4-2. 主要な雑誌論文及び図書の梗概

##### a. 雑誌論文 6. 「継続的な国際協力に基づく途上国の都市計画プロジェクトの発展過程」

ダマスカスにおける日本の都市計画プロジェクトは、相手国の信用に根差した優れた国際協力プロジェクトの貴重な事例である。本稿では、日本の都市計画プロジェクトの発展過程を明らかにして、プロジェクトが継続的であるための条件を分析する。1973年、専門家奥井正雄は番匠谷堯二から引き継いだ詳細計画を策定した。1999年には、都市交通調査が実施され、喫緊の交通改善事業が実現された。2008年には、橋本強司率いる開発調査チームが広い視野で調査を行い、ダマスカス首都圏というコンセプトを提起するとともに、能力開発でも成果を上げた。2009年にこの開発調査はカナワート歴史地区とゴータ緑地地区の2つの地区詳細計画からなる技術プロジェクトに引き継がれた。結論として、カウンターパートとの信頼関係こそが、プロジェクトを効果的にする上で最も重要であると指摘した。

##### b. 雑誌論文 9. 「戦災復興都市計画によるベイルート旧市街の変容過程 -中東都市多層ベスマップシステムによる分析から-」

2011年3月に勃発したシリア内戦は今日まで終わりの気配がみられない。これまでの都市計画分野における協力の実績を考えると、内戦終了の折には戦災復興都市計画において日本が協力していくことが考えられる。この観点から、本稿はベイルートの都市計画通史の分析を行う。オスマン帝国時代の計画、フランス委任統治領時代の計画、あるいはエコシャルや番匠谷といった都市計画家の存在など、シリア主要都市との共通項が多いためである。エコシャルによる1943年の計画は、今日に至るまで後継計画に影響を与えており、ガルゴールとサイフィの2地区の再開発は、ハリリー及びその後継者達による強いリーダーシップの下で進行中である。

##### c. 雑誌論文 14. "Gyoji Banshoya (1930-1998): a Japanese planner devoted to historic cities in the Middle East and North Africa"

Gyoji Banshoya (1930-1998) was a Japanese urban planner whose life-work was urban planning in the Middle East and North Africa. The purpose of this paper is to provide an overview of his work, which still remains unknown. His early masterpiece, the 'Square House', shows how he was influenced by Kiyoshi Seike to apply historic spatial composition to realize width and convertibility in low-cost housing. Following this, Banshoya studied under the supervision of Gerald Hanning and George Candilis at *Ateliers de Bâtisseurs* in Paris, and went to Algiers to

engage in the study of 'evolutionary habitat'. As a United Nations Development Programme (UNDP) expert, he began working with Michel Ecochard in 1962 in Beirut, Damascus, and Aleppo. They were responsible for the elaboration of master plans for these three cities, and that of Damascus still remains as a legally active master plan today. Coupled with the Syrian political struggle since the 1980s, there has been some reaction against their modernist policies. However, the case is made for a detailed examination of Banshoya's work, and re-evaluation of its legacy for the urban planning history of the Middle East and North Africa.

d. 図書 4."Japanese Cooperation for evolutional housing and slum upgrading projects under Mayor Chevallier –Spatial Experience of Gyoji Banshoya in Algiers"

The purpose of this chapter is to examine his work for the slum upgrading projects in Algiers under Mayor Jacques Chevallier, which still remains unknown. After studying in the laboratory of Kiyoshi Seike, Banshoya studied under the supervision of G. Hanning and G. Candillis at ATBAT. His experiences at ATBAT in Paris led him to Algiers where housing policy permitting Muslims and Christians to cohabit had been introduced. Banshoya engaged in the study of an evolutional housing system. Jean-Jacques Deluz testified that he was a genius of dessin. As micro scale and macro scale were clearly unified in French-Algerian urban design, Banshoya started to work not only on housing design but also on urban design including the slum upgrading projects in Algiers. In fact, he participated in the Les Annassers, Mahieddine, Champ de Manoeuvres, Chateauneuf Frais-Vallon and "Temporary housing replacing tin-roofed shelters projects". Though none of these projects were solely credited to Banshoya, the fact that Mayor Chevallier listed Japanese at the top of his list of member nationalities at the Agency suggests that Banshoya performed some important tasks.

#### 4-3.総括

全体として、対象都市における旧市街の空間構成を一次資料及び既往研究から解明し、これを踏まえてフランス植民地化以降の近代都市計画史の考察を行った。学術論文を上梓した上で、これを踏まえた学会口頭発表、研究会発表、大学ゲストレクチャー、一般講演などの機会を得て発表を行った。

また、直接の事例都市ではないが、カンボジアにおける番匠谷らの活動をレビューすることで、保全型の住宅計画論の概要が明らかとなり、後年の中東における都市計画の分析のための前提情報を得た。

更に、筆者の博士論文を基にした著書『モロッコの歴史都市・フェスの保全と近代化』をフランス語に翻訳し、AA 研叢書として出版することもできた。同書は現在、世界中の図書館に所蔵されている。

今日の中東・北アフリカ地域の国々は、いわゆるアラブ革命を経て民主化への道を歩もうとしている。大局的には、政治の民主化と経済のグローバル化によって、都市の多様化もまた加速することが予想されるが、あまりに急速な変化は歴史的遺産の喪失を伴う。これまで継続されてきた先進諸国との国際協力・交流に基づく都市保全プロジェクトも、都市空間の急激な商業開発や観光化への対応が一層重要な課題となる。これら複雑化する都市保全を巡る状況を歴史的に整理し、一つのパースペクティブの下に提示することは、個々の保全プロジェクトの指針たりうるとともに、今後の日本による都市保全分野の国際協力・交流を先導することが期待される。

#### 4-4.二つの学会賞の受賞について

本若手 A 研究の総括として位置づけられる「中東・北アフリカ地域の都市計画技術協力史に関する一連の研究」により、日本都市計画学会論文賞を受賞した(2016.5.20)。また、「Gyoji Banshoya (1930–1998): a Japanese planner devoted to historic cities in the Middle East and North Africa」により、国際都市計画史学会東アジア都市計画史賞の受賞(2016.7.20)が決定した。

#### 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計15件)

1. 松原康介「1960年代カンボジアにおける日本人専門家の都市計画国際協力」都市計画論文集、2015年11月、50-3号、808-815頁(査読有)  
DOI: 10.11361/journalcpj.50.808
2. Kosuke Matsubara, "Gyoji Banshoya (1930–1998): a Japanese planner devoted to historic cities in the Middle East and North Africa", *Planning Perspectives*, Volume 31, Issue 3, pp.391-423, Oct. 2015. (査読有)  
DOI:10.1080/02665433.2015.1073610
3. Kosuke Matsubara, "Japanese Collaborators in the Golden Age of Modern Khmer City and Architecture in Cambodia", *Proceedings of the 15th SCA Conference and International Symposium*, 16, May. 2015, pp.13-18. (査読無)

4. Kosuke Matsubara, "Evolutional Housing in the last years of French Algiers", Proceedings of the International Symposium on City Planning, Nov. 2014, pp.1-18. (査読無)
5. Kosuke Matsubara, "The Work of Gyoji Banshoya in the Middle East and North Africa" in Hidemitsu Kuroki (ed.), Human Mobility and Multiethnic Coexistence in Middle Eastern Urban Societies 1: Tehran, Aleppo, Istanbul, and Beirut, Studia Culturae Islamicae, No.102, Tokyo, ILCAA, Tokyo University of Foreign Studies, 2015, pp.167-192. (査読無)
6. Kosuke Matsubara, "The Morphology of Beirut's Multilayered Downtown Area", Proceedings of the 16th International Planning History Society, Select Full Papers, -Volume 2-, Florida, Jul. 2014, pp.741-750. (査読有)
7. 松原康介「戦災復興都市計画によるベイルート旧市街の変容過程 -中東都市多層ベースマップシステムによる分析から-」都市計画論文集、2013年11月、48-3号、213-218頁(査読有)  
DOI: 10.11361/journalcpj.48.213
8. Kosuke Matsubara, "Japanese Cooperation for Urban Planning in the Old Capital of Damascus", Journal of Civil Engineering and Architecture(ISSN1934-7359), Volume 7, No. 4, pp.487-505, Apr. 2013. (査読有)
9. Kosuke Matsubara, "Jokamachi et Buraku", Philippe Bonnin, Nishida Masatsugu et Inaga Shigemi (ed.), Pour un Vocabulaire de la spatialite Japonaise, Proceedings of the 43th International Research Symposium, International Research Center for Japanese Studies, 2013, pp.191-194. (査読無)
10. 松原康介「継続的な国際協力に基づく途上国の都市計画プロジェクトの発展過程」都市計画論文集、2012年11月、47-3号、673-678頁(査読有)  
DOI: 10.11361/journalcpj.47.673
11. Kosuke Matsubara, "Banshoya Gyoji in Alger", Proceedings of the International Symposium on City Planning in Taiwan, No.19, Taipei, Aug. 2012, pp.653-662. (査読有)
12. Kosuke Matsubara, "Urban Planning Projects in Developing Countries based on International Cooperation-Focusing on the Case of Damascus, Syria", Proceedings of the 9th The International Symposium on Architectural Interchanges in Asia (ISAIA), Gwangju, Oct. 2012, pp.356-365. (査読無)
13. Kosuke Matsubara, "The Work of Gyoji Banshoya in the Middle East and North Africa", Proceedings of the 15th International Planning History Society Conference (ISBN 978-85-8089-020-4), Sao Paulo, Jul. 2012, p.(Session 26-5). (査読有)
14. Kosuke Matsubara, "Japanese Cooperation for Urban Planning in the Old Capital of Damascus -A case study of "Restoration-Type" Facade improvement-", Proceedings of the Association of European Schools of Planning (AESOP) 26th Annual Congress, ABS ID 609, Ankara, Jul. 2012, pp. 1-16. (査読無)
15. Kosuke Matsubara, "A study on a restoration typed facade improvement for the Qasr Al Hajjaj street, Damascus", Proceedings of the 10th Conference of Asian City Planning, Tokyo University, Jun. 2012, pp.102-111. (査読無)  
〔学会発表〕(計17件)
1. Kosuke Matsubara, "The Result of Slum Upgrading Projects in 1950's Algiers", The Tunisia-Japan Symposium on Science, Society and Technology, University of Tsukuba, Tsukuba, Ibaraki, 23 Feb. 2016.
2. Kosuke Matsubara, "The genealogy of Haussmannisation in the historic city of Aleppo -A case study of the overseas deployment of French urbanism", 5th Meeting of the Project "Human Mobility and Multi-ethnic Coexistence in Middle Eastern Urban Societies (II), TUFS-ILCAA, Tokyo, 17 Feb. 2016.
3. Kosuke Matsubara, "Les ouvrages de Gyoji Banshoya au Moyen-Orient et Maghreb", Conférences Glycines, Alger, Algérie, 11 Feb. 2016.
4. Kosuke Matsubara, "The genealogy of Haussmannisation in the historic city of Aleppo -A case study of the overseas deployment of French urbanism", International Policy Forum on Urban Growth and Conservation, Tehran, Iran, 3 Oct. 2015.
5. Kosuke Matsubara, "Gyoji Banshoya's work -As a Turning Point of Urban Planning Policy-", 4th Meeting of the Project "Human Mobility and Multi-ethnic Coexistence in Middle Eastern Urban Societies (2), Beirut, Lebanon, 4 Sep. 2015.
6. Kosuke Matsubara, "Gyoji Banshoya, A

- Japanese planner's work in the Middle East and North Africa", Lecture for Japanese Club at Al Akhawayn University in Ifrane, Ifrane, Morocco, 17 Mars. 2015.
7. 松原康介, 「シリアにおける日本の都市計画協力の実績と戦災復興の展望」, シンポジウム「シリア内戦下の文化遺産: その危機と保護にむけて」, 筑波大学・常木晃研究室主催、池袋サンシャイン文化会館、東京、2015年2月21日
  8. Kosuke Matsubara, "Gyoji Banshoya's work in the last years of French Algiers", 3rd Meeting of the Project "Human Mobility and Multi-ethnic Coexistence in Middle Eastern Urban Societies (2)", Beirut, Lebanon, 14 Feb. 2015.
  9. Kosuke Matsubara, "Gyoji Banshoya: A Japanese Urban Planner in MENA in the 1960s and 70s", Lecture for Japanese Club at Al Akhawayn University in Ifrane, Ifrane, Morocco, 19 Mars. 2014.
  10. Kosuke Matsubara, "MBS, Self Introduction and Urban Planning History", 1st Meeting of the Project "Human Mobility and Multi-ethnic Coexistence in Middle Eastern Urban Societies (2)", Beirut, Lebanon, 26 Feb. 2014.
  11. Kosuke Matsubara, "The History of Urban Planning in Middle Eastern Cities as Seen Using a Multi-layered Base Map System", Toward War Damage Reconstruction, 58th International Conference of Eastern Studies Tokyo, Tokyo, 24 May. 2013.
  12. Kosuke Matsubara, "Urban Planning Projects in Developing Countries based on International Cooperation -Focusing on the Case of Damascus, Syria", Guest Lecture for the Faculty of Architecture, Hunan University, Hunan, China, 19 Apr. 2013.
  13. 松原康介, 「モロッコの歴史都市 フェスの保全と近代化」, 2013年学芸セミナー、学芸出版社会議室、京都、2013年3月29日
  14. 松原康介, 「シリアにおける戦災復興都市計画の展望」, 中東研究会(主査・立山良司防衛大学校教授) 東洋英和女学院大学大学院棟、東京、2013年3月28日
  15. Kosuke Matsubara, "Japanese Cooperation on Earthquake Disaster Risk Management for Almaty -Toward an Interactive cooperation-", International Workshop in Kazakhstan University, Almaty, Kazakhstan, 16 Mar. 2013.
  16. Kosuke Matsubara, "Toward Urban Reconstruction Planning in Syria", The 5th Meeting of the Project "Human Mobility and Multi-Ethnic Coexistence in Middle Eastern Urban Societies", TUFUS-ILCAA, Tokyo, 1-2 Feb. 2013
  17. Kosuke Matsubara, "A brief introduction of Multi-layered Basemap System for Middle Eastern Cities", The First International Conference of Asian Network for GIS-based Historical Studies (ANGIS), Tokyo University, Tokyo, 1-2 Dec. 2012.
- 〔図書〕(計4件)
1. Kosuke Matsubara, "Japanese Cooperation for Evolutional Housing and Slum Upgrading Projects under Mayor Chevallier -Spatial Experience of Gyoji Banshoya in Algiers", in *Sustainable North African Society, Exploring Seeds and Resources for Innovation*, Nova Publishers, 2014, pp.267-284.
  2. Kosuke Matsubara, *Conservation et Modernisation de la ville Historique de Fès, Maroc*, Institute for the Study of Languages and Cultures of Asia and Africa, 252p., 2014
  3. Kosuke Matsubara, "Jokamachi" in Philippe Bonnin, Nishida Masatsugu, Inaga Shigemi et Collectif (ed.), *Vocabulaire de la spatialite japonaise*, CNRS, 2014, pp.204-206.
  4. 松原康介「シリア・レバノンの都市問題と都市保全 -保全と近代化のジレンマ-」黒木英充(編)『シリア・レバノンを 知るための64章』明石書店、2013年、330-338頁
  5. 松原康介「ハマー・破壊された水車のまち」布野修司編『世界都市史事典』昭和堂、2016年度出版予定
- 〔その他〕
- ホームページ等  
日本都市計画学会論文賞受賞者リスト  
<http://www.cpij.or.jp/com/prize/award/list.html>  
国際都市計画史学会東アジア都市計画史賞  
受賞者リスト  
<https://planninghistory.org/awards/east-asia-planning-history-prize/>  
筑波大学研究者総覧・松原のページ  
<http://www.trios.tsukuba.ac.jp/researcher/0000000877>  
筑波大学都市文化共生計画研究室  
<http://infoshako.sk.tsukuba.ac.jp/~matsub/>
6. 研究組織
- (1)研究代表者  
松原 康介 (MATSUBARA KOSUKE)  
筑波大学・システム情報系・准教授  
研究者番号: 00548084